

証券コード: 4228

SEKISUIKASEI

第80期

報告書

2023年4月1日から2024年3月31日まで

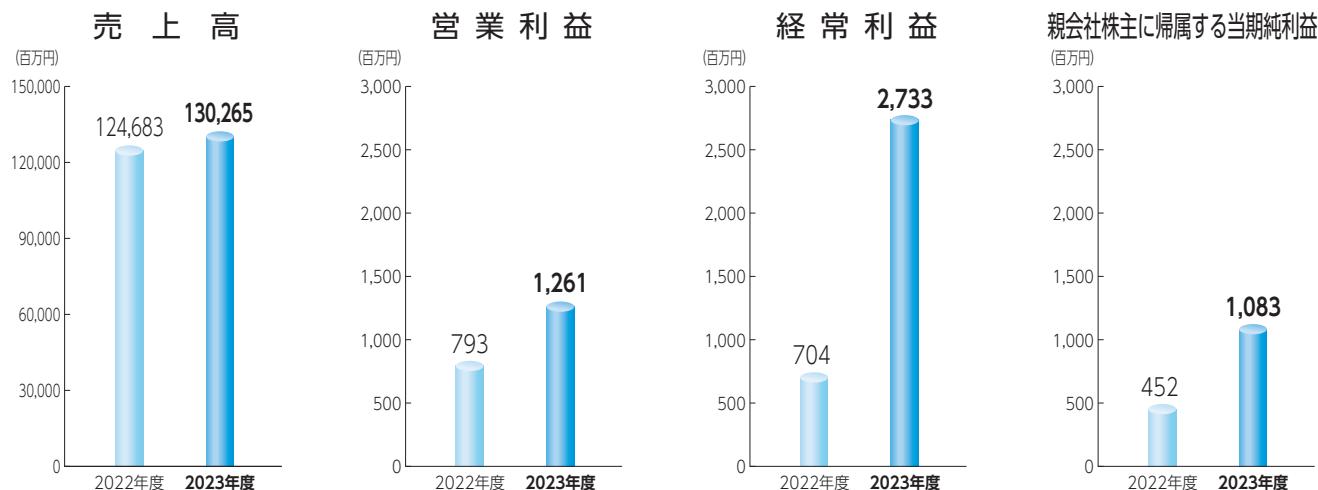
# トップメッセージ

## 中期経営計画「Spiral-up 2024」の2年目を終えて

当社グループでは、前年度からスタートさせた3カ年中期経営計画「Spiral-up 2024」の3つの重点課題に対してグループ全体で取り組んでおります。『収益体質の強化』においては、経営資源の選択と集中による事業ポートフォリオの再構築と抜本的な生産革新や開発品の早期収益化に取り組んでおります。『環境・社会課題解決型事業への転換』においては、「循環型ビジネスによる環境貢献製品の拡大」と「カーボンニュートラル実現への挑戦」を掲げ、SKG-5R<sup>(※)</sup>活動の一層の強化をはかっております。水平リサイクルの普及拡大への取組みとして、「エスレンビーズ RNW」(再生原料を使用した発泡ポリスチレンビーズ)の量産化に向けた実証事業が「環境省 令和5年度 脱炭素型循環経済システム構築促進事業(うち、プラスチック等資源循環システム構築実証事業)」に採択されました。また、環境の分野において「先進的、独自のかつ業界をリードする事業活動」を行っている環境先進企業として、環境省より「エコ・ファースト企業」の認定を受けました(5ページご参照)。今後も持続可能な社会の実現に向けて循環型社会への貢献に取り組んでまいります。『経営基盤の強化』においては、人権尊重の取り組みの推進を目的として、2011年6月に国連人権理事会で採択された「ビジネスと人権に関する指導原則」に基づき、「積水化成成品グループ人権方針」を定めました。引き続き社会・経済・環境の課題解決に取り組む、企業価値向上に努めてまいります。

売上面においては、ヒューマンライフ分野では、環境貢献製品の販売拡大に努めるものの、水産など主要用途での需要が減少となり、厳しい状況となりました。一方、インダストリー分野では、各地域により差があるものの、各領域での回復需要の取り込みを進めてまいりました。

利益面においては、エネルギー価格高騰に対して原価低減や固定費の削減、販売価格への転嫁など収益改善に取り組みました。



その結果、当期の売上高は1,302億6千5百万円（前期比4.5%の増加）、営業利益は12億6千1百万円（前期比59.0%の増加）、円安進行に伴う為替差益を含む経常利益は27億3千3百万円（前期比288.1%の増加）でありました。さらに、当期において、子会社に関連する固定資産減損等の一時的な損失含む特別損失3億1千8百万円、投資有価証券の一部売却に伴う特別利益2億8百万円を加減算し、親会社株主に帰属する当期純利益は10億8千3百万円（前期比139.4%の増加）となりました。

当期の期末配当金につきましては、1株につき10円とさせていただきます。これにより、既にお支払いしております中間配当金（1株につき3円）と合わせまして、当期の年間配当金は前期より1円増額の1株につき13円となります。

今後の見通しにつきましては、金融引き締めや不安定な国際情勢などによる景気減速の懸念に加え、為替の変動、原料価格、エネルギー価格の変動の影響に留意する必要があります。

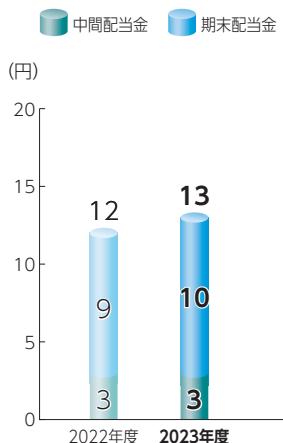
ヒューマンライフ分野においては、インバウンド需要回復による行楽・観光関連資材需要の拡大を予想する一方で、物価上昇などの影響もあり個人消費の持ち直しに足踏みがみられ、スーパー等の食品用トレー、飲食店における持ち帰り容器などの内中食需要が落ち着くものと見込まれます。インダストリー分野においては、モビリティ領域は、ウクライナ情勢や地政学リスクによるサプライチェーン悪化の懸念もありますが、部材用途、部品梱包材用途では、地域やメーカーによってばらつきはあるものの、全般的に回復基調が予想されます。また、エレクトロニクス領域においては、液晶関連全般で、引き続き需要の回復が期待されます。

なお、2025年3月期の連結業績見通しにつきましては、売上高1,320億円、営業利益25億円、経常利益22億円、親会社株主に帰属する当期純利益8億5千万円を見込んでおります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

（※）「SKG」は、積水化成成品グループ、「5R」は、Reduce, Reuse, Recycle, Replace, Re-createを指します。

## 配当実績



代表取締役社長

柏原正人

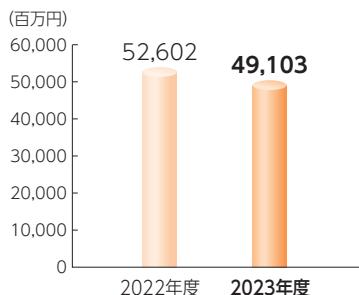


# 2023年度の事業別概況（連結）

## ヒューマンライフ分野

### 売上高

49,103百万円 | 前年比 6.7%減

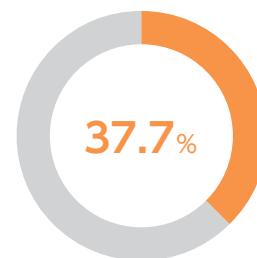


### セグメント利益

1,787百万円 | 前年比 30.9%減



### 売上高構成比



食領域においては、食品容器用途は食材価格の値上げの影響などを受け需要は伸び悩みました。農産用途は天候の影響による生育不良により出荷が伸びず、水産用途は漁獲量の減少傾向が継続し低調に推移しました。売上高は価格改定による増加はありましたが、全体的には前年を下回る結果となりました。

住環境・エネルギー領域においては、屋上緑化資材の物件獲得が進みましたが、建材用途の低迷、土木用途での工事物件の進捗遅れなどがあり低調に推移しました。

主力製品である「エスレンシート」の売上数量は、プラスチック使用量の削減を可能にする新たな素材として株式会社エフピコと共同開発した省資源素材「エスレンシート PZシリーズ」が、新規需要を取り込むなど数量を伸ばしました（6ページご参照）。

一方、納豆容器用途は堅調に推移したものの、スーパーなどの生鮮食品容器用途が低調な動きとなり、即席麺用途も需要減退が継続し、全体では前年を下回りました。

「エスレンビーズ」の売上数量は、水産分野及び農産分野が継続して低調であったこと、クッション用ビーズなどのライフグッズ用途の需要減少、土木用途では工事遅れの影響を受け、全体では前年より減少しました。

利益面では、原価低減や固定費削減、販売価格への転嫁、また物流費の低減などをはかりましたが、売上数量の減少により減益となりました。



## インダストリー分野

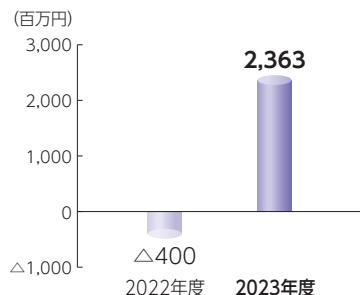
### 売上高

81,161百万円 | 前年比 12.6%増

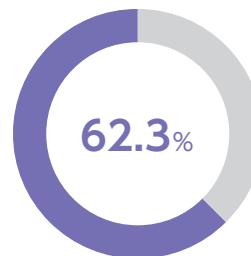


### セグメント利益

2,363百万円 | 前年比 -



### 売上高構成比

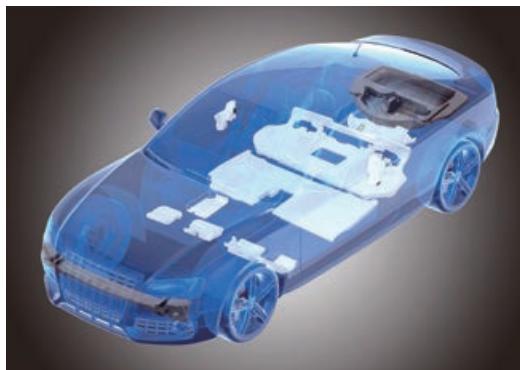


モビリティ領域における「ピオセラン」の販売は順調に推移しました。用途別では、自動車部材用途は、自動車生産台数の回復を背景に順調に推移しました。部品梱包材用途では、電動部品梱包用途での需要は前年を大幅に下回りましたが、トヨタ自動車株式会社の電動部品物流用途のリターンブル資材に採用された「ピオセラン RNW」の市場投入が進みました（7ページご参照）。また、トラック、バス向けのFRP（繊維強化プラスチック）部材ならびに関連資材などで新たな需要を取り込み好調に推移しました。欧州のProseatグループでは、欧州自動車市場は緩やかに回復する中、生産量が増加したことに加え、エネルギー価格、人件費の高騰に対しては、生産性改善、固定費削減や自動車メーカーへの価格転嫁を進めたことで、業績は大幅に回復が進んだものの、赤字が継続しています。

エレクトロニクス領域においては、「テクポリマー」の液晶パネル等の光拡散の用途は、順調に推移しました。液晶パネル搬送資材用途での「ピオセラン」は、台湾で需要回復も、中国では前年を下回りました。

医療・健康領域においては、「エラストイル」は、プロテクティブスニーカーでの需要が一巡した一方、トレーニングシューズ用の売上が伸びましたが、前年を下回りました。「テクノゲル（ST-gel）」は、医療用途は堅調に推移しましたが、健康用途は低調に推移しました。

利益面では、エレクトロニクス領域での需要回復、モビリティ領域では自動車生産台数が回復していく中で、生産性改善、固定費削減、価格転嫁等に努めた結果、黒字化することができました。



# トピックス

## 環境省より「エコ・ファースト企業」に認定 ～環境先進企業としての地球環境保全への取り組みを約束～

当社は、環境省の「エコ・ファースト制度」において、「エコ・ファースト企業」に認定されました。

「エコ・ファースト制度」は、環境の分野において「先進的、独自のでかつ業界をリードする事業活動」を行っている企業（業界における環境先進企業）であることを環境大臣が認定する制度です。当社グループは、持続可能な社会の実現を目指し、従来から注力している3R (Reduce, Reuse, Recycle) に、グループ独自の2R (Replace, Re-create) を加えたSKG-5R<sup>(※)</sup>を実践し、SDGsに掲げられた地球規模の環境・社会課題解決に寄与します。

今回、こうした取り組みをまとめ、「エコ・ファーストの約束」として宣言し、環境先進企業として認められました。



環境大臣認定  
エコ・ファースト企業

### 積水化成品工業株式会社「エコ・ファーストの約束」(概要)

- 2030年度までに、使用原料の50%をリサイクル原料または生分解性 / バイオマス由来に置き換え
- プラスチック資源循環法 自主回収・再資源化事業計画の認定を取得して、発泡スチロールの再資源化活動を全国に展開
- 2030年度 サステナブル・スタープロダクト(環境貢献製品) 創出累計100件 / 売上高比率50%以上

積水化成品工業株式会社「エコ・ファーストの約束」(全文)  
<https://www.env.go.jp/guide/info/eco-first/commitment.html>



認定式

当社は、上記の取り組みの進捗状況を確認し、その結果をホームページなどで定期的に公表するとともに、環境省へ報告してまいります。

(※) SKG-5R レポート2023 : [https://www.sekisuikasei.com/jp/assets/images/csr/skg-5r/pdf/skg-5r\\_report2023jp.pdf](https://www.sekisuikasei.com/jp/assets/images/csr/skg-5r/pdf/skg-5r_report2023jp.pdf)



## 「エスレンシート PZシリーズ」を、株式会社エフピコと共同開発

株式会社エフピコの「祝賀桶」シリーズは、ハカマ形状のデザインが特徴的で人気を博している大型の寿司容器です。同社では、これまで非発泡で成形性が良い別素材を使用していましたが、プラスチック使用量の削減に対するカスタマーニーズに応え、この度、大型容器向けの新たな素材として、協働で「エスレンシート PZシリーズ」を開発しました。

「エスレンシート」は、ポリスチレン樹脂を発泡させて押出したシート（PSP）で、発泡シートの特性である省資源・軽量性・保温性・保冷性などの特長から食品容器として幅広く使用されています。

当社の押出发泡技術により、耐衝撃性・表面平滑性・成形性を向上させ、株式会社エフピコの成形技術や金型設計技術と融合させることで、これまで不可能と言われてきた、蓋との嵌合性を必要とする大型寿司容器など非発泡容器市場への展開が可能となりました。

### 「エスレンシート PZシリーズ」の特長

1. 非発泡樹脂成形品と比べ、50～60%の軽量化が可能です。
2. 耐衝撃性・表面平滑性に優れます。
3. 複雑な容器形状にも対応できる成形性を有しています。



「エスレンシート PZシリーズ」は、プラスチック使用量の削減だけでなく、非発泡の従来品と比べて50～60%の軽量性を実現していることから、「祝賀桶」シリーズに続き、凹凸形状が多く成形難易度が高い「氷河桶」シリーズにも採用いただき、こちらも大幅な軽量化に成功しています。



「エスレンシート PZシリーズ」を原料に使用した株式会社エフピコの大型食品容器「祝賀桶」シリーズ

# トピックス

## 「ピオセラン RNW」が、トヨタ自動車の電動部品物流用途のリターナブル資材に採用

トヨタ自動車は、2015年に「トヨタ環境チャレンジ 2050」を発表し、気候変動や資源枯渇といった地球環境の問題に対して、さまざまな取り組みを実施しています。その一環として、以前より部品物流の資材をワンウェイからリターナブルへと切り替える活動を推進されてきました。

この度、さらなる資源循環に向け、従来リターナブル使用後に廃棄されていた資材を再生活用した「ピオセラン RNW」を、電動部品物流梱包で採用いただきました。

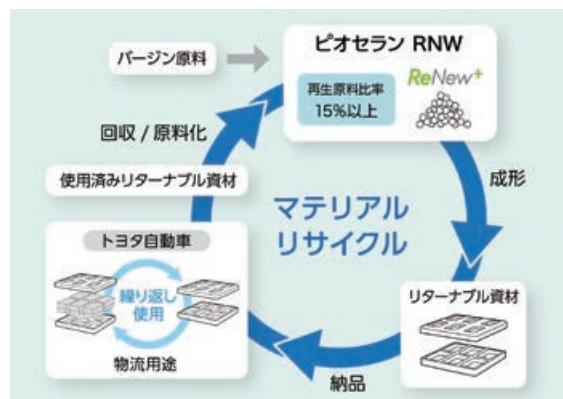
「ピオセラン」は、ポリスチレンとポリオレフィンをハイブリッド化した高機能発泡樹脂で、自動車部材や部品輸送梱包材として幅広く使用されています。採用された「ピオセラン RNW」は、独自に開発した技術により、回収した使用済み「ピオセラン」の資源循環を可能とした製品です。

さらに今例においては、使用済みのリターナブル資材は回収され、再び「ピオセラン RNW」として再生するスキームも確立しており、トヨタ自動車では、今後別の部品物流梱包材においても「ピオセラン RNW」の採用を予定されています。

当社は、リサイクル原料を活用した「ピオセラン RNW」の物流資材が人と地球の未来に貢献する3R (Reduce、Reuse、Recycle) を体現する製品として、自動車メーカーや部品メーカーだけでなくロジスティクス全般に提案を進め、採用拡大を目指します。



「ピオセラン RNW」リターナブル資材



「ピオセラン RNW」のマテリアルリサイクル

# 第80回定時株主総会のご報告

## 報告事項

1. 第80期（2023年4月1日から2024年3月31日まで）  
事業報告、連結計算書類および計算書類の内容報告の件  
上記の内容を報告しました。
2. 会計監査人および監査役会の連結計算書類監査結果報告の件  
上記の内容を報告しました。

## 決議事項

### 第1号議案 剰余金の処分の件

原案どおり承認可決され、期末配当金は1株につき10円と決定しました。  
なお、支払開始日は2024年6月24日です。

### 第2号議案 取締役8名選任の件

原案どおり承認可決されました。  
（重任）柏原正人、佐々木勝巳、古林育将、廣田徹治、浅田英志、上原理子、若林市廊  
（新任）小椋悟  
なお、上原理子、若林市廊、小椋悟は、社外取締役です。

### 第3号議案 監査役3名選任の件

原案どおり承認可決されました。  
（重任）明石衛、高坂敬三  
（新任）藤原敬彦  
なお、明石衛、高坂敬三は、社外監査役です。  
また、本定時株主総会終了後の監査役会において、藤原敬彦は常勤監査役に選定され、就任しました。

## お知らせ

ゆうちょ銀行または郵便局の窓口で「配当金領収証」にて配当金をお受け取りの株主様へ配当金のお受け取りをご指定の銀行または証券会社等の口座への振り込みにされますと、支払開始日に迅速・安全・確実に配当金をお受け取りいただけます。ぜひお受け取り方法の変更をご検討くださいますようお願いいたします。

### 口座振込へのお手続き方法について

- ◆証券会社の口座で株式を管理されている株主様：お取引の証券会社までお問い合わせください。
- ◆証券会社に口座をお持ちでない株主様：以下の株主名簿管理人までお問い合わせください。  
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 0120-094-777（通話料無料）

# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表の要旨

(単位：百万円)

資産の部		第79期 (2023年3月31日現在)	第80期 (2024年3月31日現在)	負債・純資産の部		第79期 (2023年3月31日現在)	第80期 (2024年3月31日現在)
流動資産	66,874	69,110	流動負債	48,096	52,971		
固定資産	78,301	77,363	固定負債	38,614	36,681		
			負債合計	86,711	89,652		
			純資産合計	58,464	56,821		
資産合計	145,175	146,473	負債・純資産合計	145,175	146,473		

### POINT

- 資産の部は、おもに売掛金および電子記録債権の増加などにより、1,298百万円増加しました。
- 負債の部は、おもに長期借入金と短期借入金の増減、支払手形および買掛金などの増加により、2,941百万円増加しました。
- 純資産の部は、1,642百万円減少しました。

## 連結損益計算書の要旨

(単位：百万円)

	第79期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	第80期 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
売上高	124,683	130,265
営業利益	793	1,261
経常利益	704	2,733
親会社株主に帰属する当期純利益	452	1,083

### POINT

- 売上高は、おもに欧州自動車市場の回復で生産量が増加したことなどにより、5,581百万円増加しました。
- 為替差益が前期より増加したことなどにより、経常利益は2,733百万円になりました。

## 連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位：百万円)

	第79期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	第80期 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,110	7,375
投資活動によるキャッシュ・フロー	△993	△3,779
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,542	△3,658

### POINT

- 営業活動CFは、営業利益の増加などにより、前期に比べ4,264百万円増加しました。
- 投資活動CFは、投資有価証券の売却による収入の減少により、前期に比べ2,785百万円減少しました。
- 財務活動CFは、長期借入金による収入が減少したことにより、前期に比べ2,115百万円減少しました。

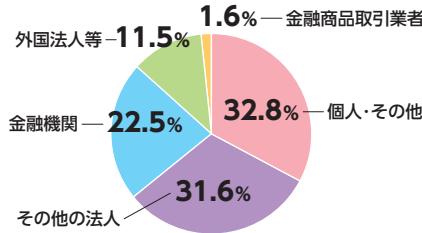
# 株式の状況・会社概要

## 発行株式数および株主数 (2024年3月31日現在)

発行可能株式総数	発行済株式の総数	株主数
124,751,000株	46,988,109株	9,676名

## 所有者別分布状況 (所有比率)

(2024年3月31日現在)



(注) 所有比率は、自己株式 (1,614千株) を控除して計算しております。

## 会社の概要

(2024年3月31日現在)

商号 (英文表示)	積水化成工業株式会社 (Sekisui Kasei Co., Ltd.)
本社	大阪市北区西天満二丁目4番4号
設立年月日	1959年10月1日
資本金	16,533,476,176円
グループ従業員数	3,460名
営業品目	
(セグメント別)	

ヒューマンライフ分野	市場・用途	主な製品・商品
	農水産資材、食品包装材、流通資材、建築資材、土木資材	エスレンビーズ、エスレンシート、エスレンウッド、インターフォーム、これら成形加工品 ESダンマット、エスレンブロックなど

インタストリー分野	市場・用途	主な製品・商品
	自動車部材、車輻部品梱包材、産業部材、産業包装材、電子部品材料、医療・健康用材料	ピオセララン、ライトロン、ネオミクロレン、セルベット、テクポリマー、テクノゲル、テクヒーター、エラストイル、フォーマック、ST-LAYER、ST-Eleveat、これら成形加工品など

## 大株主

(2024年3月31日現在)

株主名	所有株式数	所有比率
	千株	%
積水化学工業株式会社	9,855	21.72
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	3,226	7.11
積水化成成品従業員持株会	1,979	4.36
第一生命保険株式会社	1,970	4.34
INTERACTIVE BROKERS LLC	1,562	3.44
積水樹脂株式会社	1,419	3.13
大同生命保険株式会社	1,418	3.13
株式会社エフピコ	1,348	2.97
株式会社三菱UFJ銀行	1,327	2.93
積水化成成品取引先持株会	1,266	2.79

(注) 当社は自己株式を1,614千株保有しておりますが、上記大株主から除外しております。

## 取締役および監査役

(2024年6月21日現在)

取締役	代表取締役社長	柏原 正人
取締役	取締役	佐々木 勝巳
取締役	取締役	古林 育将
取締役	取締役	廣田 徹治
取締役	取締役	浅田 英志
社外取締役	社外取締役	上原 理子
社外取締役	社外取締役	若林 市廊
社外取締役	社外取締役	小 椋 悟
監査役	常勤監査役	松本 治彦
	常勤監査役	藤原 敬彦
	社外監査役	明石 衛
	社外監査役	高坂 敬三

## 経営理念

われわれ積水化成成品グループは、  
人間尊重と相互信頼を基本に全員経営を実践し、  
“新しい幸せ”を目指して常にイノベーションをし続けます

### 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 毎年3月31日、期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話：0120-094-777 (通話料無料)
公告の方法	電子公告 公告の内容は、当社ホームページにおいてご覧ください。 <a href="https://www.sekisui-kasei.com/ir/ir-others/electronic-public_notice/">https://www.sekisui-kasei.com/ir/ir-others/electronic-public_notice/</a> ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告 による公告をすることができない場合は、日本経済新聞 に掲載して行います。
上場証券取引所	東京証券取引所プライム市場
※株主様のお問合せ先	積水化成成品工業株式会社 管理本部 法務コンプライアンス部 電話06-6365-3084



ユニバーサルデザイン(UD)の考え方に  
基づき、より多くの人に見やすく読みまちが  
えにくいデザインの文字を採用しています。